

ブルーノ・タウトに関する考察

正会員 ○田中 辰明*

ブルーノ・タウト	ドイツ	桂離宮
アンカラ大学	ジードルング	オットー・シリー

ブルーノ・タウトの展示会

ブルーノ・タウトは1938年12月24日イスタンブールで客死した。2018年は没後80年にあたり、ドイツでは展示会などの行事が行われた。タウトが亡命のような形で来日するまで家族と共に住んでいた、自らが設計を行った住宅はベルリンの南約40kmのダーレビッツ(Dahlewitz)にある。その隣町であるブランケンフェルデ(Blankenfelde)で展示会¹⁾が行われた。筆者はタウト滞日中の事について資料の提供などお手伝いをした関係で招待を受け12月14日に展示会を訪問した。展示会場にはタウトの建築作品、著作、絵画などが展示されていた。また1933年から1936年における日本滞在に関する展示、ブルーノ・タウトに関する書籍などが展示されていた。

ブルーノ・タウトの家族

展示会場にはタウトのお孫さんであるクリスチーネ・シリー(Frau Christine Schily)さんも招かれていた。



写一1 タウトのお孫さん、
クリスチーネ・シリーさん

タウトはエリカ・ヴィティヒ(Erica Wittich)という女性と共に来日し、タウト夫人という事で過ごしていた。この女性は優秀な秘書で、この人がタウトの速記や文書の清書を行ったので、タウトは沢山の著作を残す事が出来た。エリカはタウトがイスタンブールで死亡した後デスマスクを含めて遺品を持って来日し、タウトとエリカが住んでいた高崎の少林山達磨寺に届けた。このような努力のおかげでタウトの日記を含めて著作の和訳が可能になった。タウトの正妻はベルリンの郊外コーリン(Chorin)出身のヘドヴィック(Hedwig)といった。

ヘドヴィックとタウトの間にはハインリッヒ(Heinrich)と

いう長男と長女のエリザベート(Elizabeth)がいたが、ヘドヴィックは子供と共にタウトがほかの女性と訪日した際に、離婚もせずドイツに残った。展示会に招待されたお孫さんはエリザベートの娘である。この方はドイツで緑の党を立ち上げ、後ドイツ社会党(SPD)へ移籍し、ドイツ社会党が政権と取った1998~2005年の間内務大臣(ゲアハルド・シュレーダー内閣)を務めたオットー・シリーと1966年に結婚している。ドイツは現在環境先進国と言われるが、シリー大臣が果たした役割は大きい。ブルーノ・タウトが1926~1931年にかけて設計し建設したツエーレンドルフの森のジードルング、オンケルトムズヒュッテにはブルーノ・タウトの顕彰碑が建っている。表にはタウトの経歴と共にタウトの言葉「建築はプロポーションの芸術である」(Architektur ist Kunst der Proportion)と書かれている。その裏側には「住宅には白樺、松、花そして芝生が必要」としている。オットー・シリーはブルーノ・タウトの事を書いた解説書²⁾にも巻頭言を寄せている。「人々は建築に合わせて生活することを期待されてはなりません、その代わりに建築は人間の欲するものをくみ取り、作られなければなりません。ブルーノ・タウトは建築の精神的、道徳的効果を期待していました。氏の「アルプス建築」は美学と道徳の統合に向けて大変な努力を致しました。それにも関わらず、ブルーノ・タウトは純粋な知的空想が実際の側面を見失う事の無いように注意していました。ブルーノ・タウトはベルリンで社会主義集合住宅建設の先駆者として貢献しました。氏は文字どおり、首都に色彩をもたらした田園都市ファルケンベルクが嘲笑的に「絵具箱の集落」と言われても気にかけませんでした。ドイツヴェルクブンドの理想がベルリンで実現したのです。ヴェルクブンド初期のメンバーであり、著作を通して建築文化に貢献したタウトを讃えます。ブルーノ・タウトへの追憶として私の娘で、ブルーノ・タウトのひ孫にあたるジェニー・シリーは次のように語っています。「ドイツはナチスにより、自身が持っていた文化的豊かさを失いました。結局のところ、ブルーノ・タウトはスイス、日本、トルコに亡命のような形で滞りました。しかし単に亡命以上物をその地で得る事が出来ました・・・」。

ここでオットー・シリーが娘、ジェニー・シリの名前

を巻頭言に出しているのはジェニー・シリーがドイツの有名な女優になっていたからである。例えば 2010 年に「犯罪地—ヒッチコックとヴェルニッケ」で主演を演じている。ブルーノ・タウトの環境に対する考え方が、タウトを尊敬したオットー・シリーを通じてドイツの環境政策に反映していると言える。

桂離宮がタウトの作品に与えた影響

タウトは来日した翌日 1933 年 5 月 4 日上野伊三郎らに案内されて桂離宮を訪問している。そして日記に「これにつづく古書院控えの間（二の間），広縁，そこから張出された月見台の竹縁、御庭！泣きたくなるほど美しい印象だ。・・・」と記している。これほど感激した桂離宮が後のタウトの作品に影響を与えなかったはずがない。タウトは 1934 年 5 月 7 日に桂離宮を再訪している。この時は桂離宮の印象深い場所を筆でスケッチし後に「桂画帖」として 1981 年に岩波書店から出版された。この桂画帖には新御殿、第一の間の玉座が描かれている。これはタウトが 1938 年に設計したトルコのアンカラ大学文学部校舎と形態が類似している。タウトが 1936 年に設計した熱海の日向別邸にも桂離宮の質素さ、簡素さが表れていると言われる。また両者とも竹がうまく細工されて使用されている。しかしこれは桂離宮以外の日本建築、特に京都の建築も同様の質素さ、簡素さを示すものは多く、特に桂離宮と限定することはできないのでなかろうか。



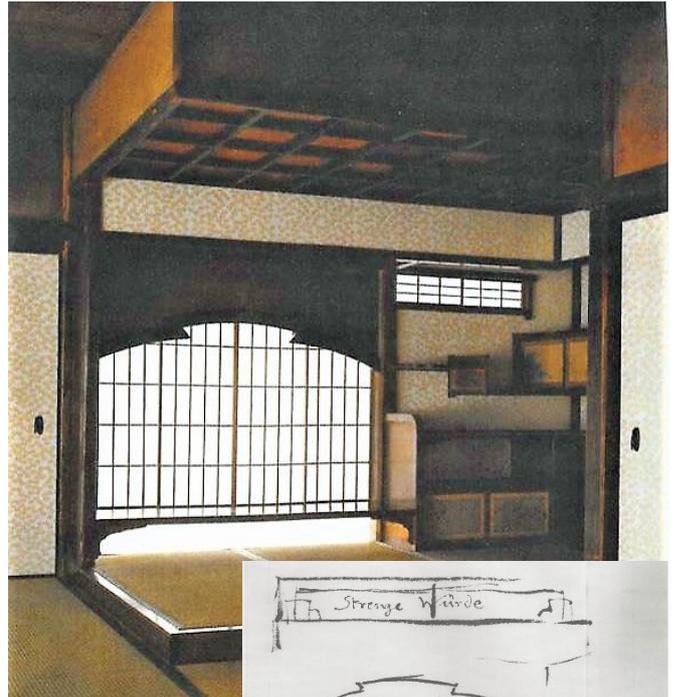
写一 桂離宮の竹

御庭！泣きたくなるほど美しい印象だ。・・・」と記している。これほど感激した桂離宮が後のタウトの作品に影響を与えなかったはずがない。タウトは 1934 年 5 月 7 日に桂離宮を再訪している。この時は桂離宮の印象深い場所を筆でスケッチし後に「桂画帖」として 1981 年に岩波書店から出版された。この桂画帖には新御殿、第一の間の玉座が描かれている。これはタウトが 1938 年に設計したトルコのアンカラ大学文学部校舎と形態が類似している。タウトが 1936 年に設計した熱海の日向別邸にも桂離宮の質素さ、簡素さが表れていると言われる。また両者とも竹がうまく細工されて使用されている。しかしこれは桂離宮以外の日本建築、特に京都の建築も同様の質素さ、簡素さを示すものは多く、特に桂離宮と限定することはできないのでなかろうか。

この時は桂離宮の印象深い場所を筆でスケッチし後に「桂画帖」として 1981 年に岩波書店から出版された。この桂画帖には新御殿、第一の間の玉座が描かれている。これはタウトが 1938 年に設計したトルコのアンカラ大学文学部校舎と形態が類似している。タウトが 1936 年に設計した熱海の日向別邸にも桂離宮の質素さ、簡素さが表れていると言われる。また両者とも竹がうまく細工されて使用されている。しかしこれは桂離宮以外の日本建築、特に京都の建築も同様の質素さ、簡素さを示すものは多く、特に桂離宮と限定することはできないのでなかろうか。

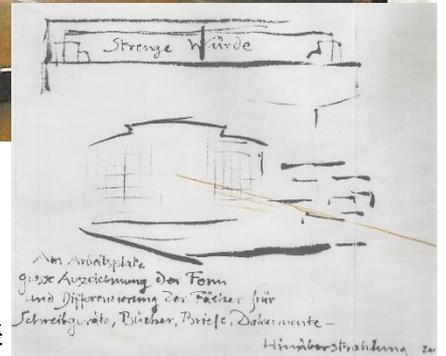


写一 日向別邸の竹



写一 桂離宮、新御殿第一の間、玉座

図一 タウト著:桂画帳



写一 アンカラ大学文学部

参考文献

1. Begegnungen mit Bruno Taut, Kulturverein Blankenfelde e.V.
2. Winfried Brenne, Bruno Taut, Meister des farbigen Bauens in Berlin, Verlagshaus Braun
3. ブルーノ・タウト“画帳桂離宮”岩波書店
4. Katsura imperial villa, edited by virginia ponciroli, Electa architecture
5. 田中辰明、ブルーノ・タウト、中公新書 2169
6. 田中辰明、ブルーノ・タウトと建築・芸術・社会東海大学出版

*お茶の水女子大学名誉教授

*Ochanomizu University Emeritus Professor